



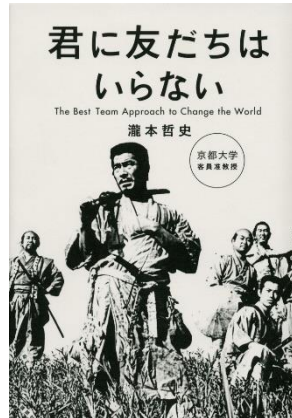
ねこだけ通信

南郷谷リハビリテーションクリニック便り

令和6年 6月発行 第15号

南郷谷の使命

私が当クリニックの院長に就任して、もうすぐ2年になりました。毎日60名前後の患者さんが来院され、お一人おひとりと言葉を交わし、診察をしています。5月からは若いスタッフが2名加わり、一段と活気溢れるクリニックになりました。



「院長はここをどんなクリニックにしたいと思われているのですか。院長が明確なビジョンを示し、職員に繰り返し伝え浸透させる必要があります。それが分からないと、私たちは目標を立てようがありません」

全く本質を突いた、有り難い意見です。改めて院長として南郷谷クリニックの「使命」を考える良い機会になりました。

ビジョン① 質の高い適切なリハビリを提供することにより患者さんの幸福に寄与する

先ず第一に、リハビリの「質」が求められます。そのためには患者さんが抱える障害、問題点を正確に把握(診断)する必要があります。脳梗塞、腰椎圧迫骨折など、責任部位を画像診断を用いて明らかにし、リハビリ専門医による「リハビリ処方」がなされます。

「処方」を受け取った理学療法士、作業療法士は、医師と打ち合わせをしたのち、患者さんと向かい合います。患者さんの身体機能(歩行状態、筋力、関節可動域、痛みの程度、栄養状態など)を評価して「リハビリ計画」を立案します。この計画に沿ってリハビリを実施し、改善の程度を評価しながらゴールを目指します。

「適切なリハビリとは何でしょう。保険診療で行うリハビリには所謂「150日ルール」というものがあります。リハビリ処方が出されてからリハビリが出来る期間は最長で150日と定められています。この期間を超えると「漫然と継続している」とみなされて、クリニック側にペナルティ(診療報酬の減額)が科されま

リハビリは万能ではありません。失われた機能を、残された機能で最大限補完することにより、生活の質(QOL)の改善を目指すものです。腰部脊柱管狭窄症や変形性膝関節症など、リハビリ単独では十分な改善が見られない疾患は手術療法を検討する必要があります。

「先月よりフラつかないで歩けるようになった」「腰の痛みが和らいでよく眠れるようになった」「手すりに掴まれば階段の上り下りができるようになった」「包丁が上手に使えるようになった」「リハが終わって帰るときは何だか元気になる」等々……。勿論リハビリのみで幸福を実現できる訳ではありません。しかし当クリニックのスタッフたちとの関わりの中で、前向きな気持ちになるきっかけとなるよう、ベストを尽くします。

ビジョン② 職員一人ひとりが主体的に考え行動し、自己実現を目指す

限られた数の職員でクリニックは運営されています。それぞれの職員が自分の役割をしっかりと理解し、主体的に行動することが求められます。指示待ち人間は必要ありません。言わば「少数精鋭」のチームであって欲しいのです。

職員個々の能力を伸ばしながら、それぞれが「成りたい自分」に成れるよう院長として見守ります。

ビジョン③ 南郷谷整形外科時代から続く旧態依然とした体質からの脱却

約40年前、武田幸之助先生が「南郷谷整形外科医院」を開設されました。当時としては珍しいCT、MRI、手術室、病棟、リハ室まで備えた個人整形外科医院でした。恐らく武田先生は、診断から、手術、入院、リハビリまで全てに対応できる「地域完結型の医院」を目指されたのでしよう。

時は流れ、現在の南郷谷「リハビリテーションクリニック」は社会医療法人令和会の一員として存続しています。40年の時の経過により、建物の老朽化が目立ちます。少しずつですがリフォームしていく必要があります。

業務の効率化、電子カルテの使いこなし、現金以外の支払い方法の導入、接遇の向上など、急がなければならぬ事が山積みです。同じ法人の熊本整形外科病院、熊本リハビリテーション病院との連携を更に進め、当クリニックの「サテライト」としての役割を強化していきます。

今後とも、皆様の率直なご意見愛情あるご指導を宜しくお願ひします。

院長 拝



はじめまして

リハビリテーション部
理学療法士 徳丸 裕樹



皆さん、初めまして。今年ゴールデンウィーク明け5月7日から熊本リハビリテーション病院から異動してきました。徳丸裕樹（とくまるゆうき）と申します。

今回は、1年間の派遣という形で南郷谷リハビリテーションクリニックのスタッフの仲間入りしております。1年間お邪魔いたします。

この場をお借りして、自己紹介をさせていただきます。

私は、菊池米や菊池温泉で有名な菊池市出身です。菊池市の西寺という地区で生まれ、育ちました。現在も、菊池市に住んでおり、約40kmの道のりを通勤しております。なかなか遠く感じる距離ですが、車の運転が好きなこともありドライブ感覚で阿蘇の自然を眺めながら運転してきています。高校まで菊池市の学校に通い、高校卒業後は東区小山にあります、熊本総合医療リハビリテーション学院・理学療法学科（専門学校）へ入学し、4年間しっかりと勉強や実習に取り組みました。その後、国家試験に無事合格し熊本リハビリテーション病院へ入職し、4年間勤めておりました。

その4年間で、人生での転機が訪れました。

まずは、2年前の5月に結婚しました。そして、去年の6月に待望の娘が生まれ、もうすぐ1歳になります。子供ができたこともあり、去年までは大津町のアパートに住んでいましたが、今年の4月に実家の近くに戸建て（平屋）を建てて、妻・娘と愛犬（トイプードル）の3人＋1匹で暮らしております。現在の趣味は、まずは娘と遊ぶことが1番の楽しみです。仕事から疲れて帰宅しても、娘の笑顔を見ると、本当に疲れが吹っ飛びます。そして、家を建てたこともあり、ガーデンングやDIYを初めて見ているところです。

最後に、来院される皆様の生活がより良いものとなるように、リハビリという形でサポートできればと思っています。異動してきたご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、自分もしっかり成長できるように頑張ります。これから、よろしくお願いたします。



「聴竹居」に「存じ」?

京都・大山崎町にある国の重要文化財「聴竹居（ちようちくきよ）」を訪れた。

最寄り駅は京都から在来線で約20分、「山崎駅」である。中国遠征中であつた羽柴秀吉が明智光秀による本能寺の変を知るや急遽畿内に引き返し（中国大返し）光秀を打ち取つたのが、ここ大山崎の天王山である。ウイスキー好きにはサントリー山崎醸造所があることでも有名。

「聴竹居」（1928年）は京都帝国大学教授で建築家であつた藤井厚二が建てた5軒目の自邸である。

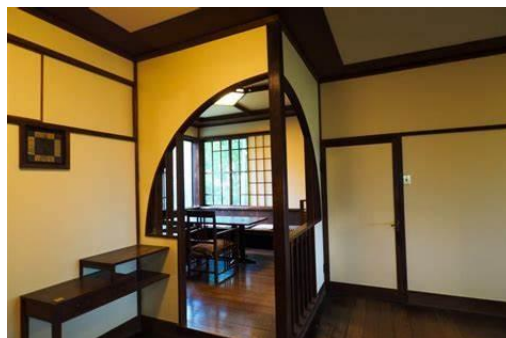
藤井厚二は1888年（明治21年）造り酒屋の次男として生まれた。東京帝国大学工学部建築科へ進学し、卒業後竹中工務店に2年間勤務した。その後恩師の勧めにより京都帝国大学建築科の講師となつた。

のちに京都帝大教授となり、日本の天候風土に適した住環境の研究を続け、その実践の場として自邸の設計を繰り返した。

「聴竹居」は駅から急な坂を10分ほど登った坂の途中にあつた。9時30分の見学ツアーまで、暫し南側の野芝が張られた庭で過ごした。定刻になり見学予約者の名前を確認された。のち、米松板張りの居室に通された。ガイド役のみのべさんがご挨拶され、私たちのグループは最初に「縁側（今日のサンルーム）」に案内された。

南面は一面ガラス張り、網代張り天井、深い庇の張り出しにより夏の日差しを遮り、冬は部屋の奥まで日差しが伸びる。擦りガラスを使って風景が絵画のように切り取られている。日本伝統の数寄屋造りに、洋のモダニズムが融合したデザインだ。

「食事室」は四分の一の円の鴨居をくぐって入る。竹井自身がデザインしたテーブルと椅子が据えられ、家族の楽しそうな団らんの様子が目に浮かんだ。



居室から食事室を眺めたところ

約一時間半をかけて建築家の解説を聞きながら、「聴竹居」を堪能することができた。

見学にはネット予約が必要で、京都にいる娘が事前に予約してくれていた。ラインで感想を伝えると、娘から

「よかったよかった 父の日の記念になったかな」と返事が届いた。